

氏 名	福岡 理英
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第591号
学位授与年月日	令和4年3月18日
審 査 委 員	主査 教授 大野 智
	副査 教授 土屋 美加子
	副査 教授 竹下 治男

論文審査の結果の要旨

糖尿病は世界的に増加し続けている生活習慣病である。糖尿病のリスク因子は様々明らかになっているが、近年、住居環境を取り巻く社会地理的因子が指摘されるようになった。我々は、中山間地域において、居住地の標高が血糖コントロールに影響を与えると仮説を立て、居住地の標高とHbA1cとの関係を明らかにすることを研究目的とした。2012年にA市で行われた特定健診を受けた1,039名に研究依頼をし、書面による同意の得られた1,016人を調査の対象とした。居住地の標高、医療機関および食料品店までの距離は、地理情報システムを使用して、実際の道路状況に基づいて推定した。線形回帰分析の結果、HbA1cは、他の潜在的な要因を調整した後も、居住地の標高と有意に関連（正の相関）していた。また、標高と不便さのパラメータである最寄りの医療機関までの距離においても正の相関がみられ、一方、最寄り食料品店までの距離では負の相関がみられた。この結果を踏まえ、不便さの代替変数として、標高の代わりに居住地から医療機関までと食料品店までの距離を入れて分析を行った結果、二次医療機関までの距離のみがHbA1cと有意に関連（正の相関）していた。本研究結果から、居住地の標高は、不便さを介して、住民の血糖コントロールに影響を与えている可能性が示唆された。

本研究は、標高という新たな地理的要因が、居住者の血糖コントロールに影響する可能性を示したユニークな研究であり、中山間地域における生活習慣病予防に新たな知見を加える、意義ある研究である。